



沿道の休憩施設や駐停車空間の 魅力向上に関する研究 (2/2)



寒 地土木研究所 地域景観ユニットでは、ドライブ観光で重要な、「道の駅」や「ビューポイント
パーキング」など、沿道の休憩施設の快適な空間づくりを目指して研究を進めています。

休憩施設に対する利用者の評価と滞在時間

平成20～21年に北海道内の「道の駅」10箇所で、道の駅に対する利用者の評価と滞在時間を調査しました。調査結果のうち、「道の駅」の休憩施設に対する利用者評価が高い順に表したのが以下の図です。「屋外休憩施設」と「屋内休憩施設」のそれぞれ、評価が高い方から4つを緑色、低い方から4つをピンク色としています。

●調査状況



●休憩施設に対する利用者評価と滞在時間

名 称	評 価			行 動 滞在時間 (分)
	屋内+屋外 評価加算	屋 外 評価点数	屋 内 評価点数	
道の駅 A	8.41	4.43	3.98	38.73
道の駅 B	8.39	4.37	4.02	46.37
道の駅 C	8.31	4.16	4.15	31.63
道の駅 D	8.05	4.09	3.96	26.34
道の駅 E	7.75	4.18	3.57	26.20
道の駅 F	7.69	3.95	3.74	22.01
道の駅 G	7.37	3.76	3.61	21.72
道の駅 H	7.21	3.68	3.53	30.36
道の駅 I	7.13	3.53	3.60	22.34
道の駅 J	6.78	3.41	3.37	22.57

※買い物などが目的の方を除く

●調査結果

休憩施設に対する利用者の評価が高いほど、道の駅の滞在時間が長い傾向にあることがわかりました。

利用者の評価とそれに影響を与える要素

「道の駅利用者の施設への評価(印象)は、イス・テーブルや駐車場などのハードな要素、接客や商品などのソフトは要素など、様々な要素に影響される。利用者はこの評価(印象)に基づいて道の駅での行動を変化させる。」と考えられます。

休憩施設の魅力向上につながる「ハードの要素」に着目



比較結果

屋外休憩空間と屋内休憩空間の評価が高い箇所と低い箇所(「利用者評価と滞在時間の図」の緑色とピンク色)について、施設にはどのようなハードの要素があるのか現地状況を比較しました。

印象(評価)の高い箇所



評価されたとされる要素

- 緑豊かな園地や樹木、木陰
- ぬくもりを感じる素材
- 広く、落ち着く休憩場所
- おもてなしを感じる施設前面のたまり空間

・・・など

印象(評価)の低い箇所

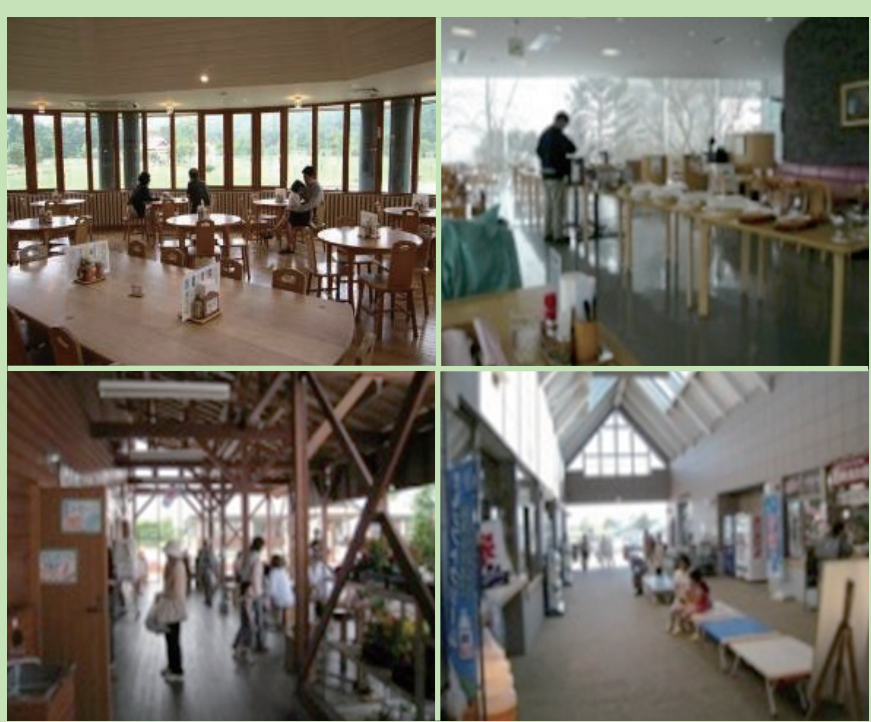


評価されたとされる要素

- 緑の少なさ、アスファルト
- 劣化を感じる施設
冷たさ、固さを感じる素材
- 場所が狭い、車の近くなど
落ち着かない休憩施設
- 駐車場と隣り合っている施設前面の空間

・・・など

印象(評価)の高い箇所



評価されたとされる要素

- 眺望できる風景
- 自然光の差し込み
- イスなどのゆったりとした配置、素材感
- 明るく賑わいを感じる休憩所

・・・など

印象(評価)の低い箇所



評価されたとされる要素

- 施設の狭さ、暗さ
- 通路が近く、落ち着かない
- イスなどの窮屈な配置

・・・など

今後に向けて

利用者評価が高い箇所と低い箇所を比較した結果、緑や明るさ、材質や配置などのキーワード(要素)がわかってきました。これらのキーワードから、機能と魅力の両方を向上させる具体的な手法を検討します。この手法が道の駅の利用者満足度の向上に貢献すると考え、以下の研究を行っています。

●具体的な機能と魅力の向上手法の提案

●デザインガイドラインの作成

